

ありす会会報

第2号

発行所
國學院女子短期大学
ありす会

〒073
北海道滝川市文京町3丁目1番1号
TEL 0125-23-4111代

8・11総会開催

会員相互の親睦と融和をはかり、母校の発展に寄与することを目的として発足した本会は、名称も「ありす会」と決定し、第一回ありす会総会を、来る、八月十一日(日)午後一時より、なかしの母校校舎において開催することになりました。あわせて午後三時より「懇親会」を行う予定です。

〈総会開催までの経過〉

早いもので、本会が発足して一年三ヶ月が経過しました。今年四月に第一期生二百五十七名を迎え、六百九名の大きな組織となりました。

▽五十九年度

初年度ということで「規約の制定」「会報の発行」「名簿の作成」などを事業目標として活動してきました。本会運営の基礎となる、規約作成のため常任幹事会で数回の検討をかさね、成案を得ました。この規約案は、昨年十二月十五日発行の会報第一号により、紙上審議の上承認をいただき、本年一月一日付で施行となりました。

また会員名簿については、会員皆様の協力により会報と同時に手元にお送りいたしました。

▽六十年度

二年目を迎え、規約に基づき会の運営を行ってきました。しかし、本会運営の源泉となる会費は、在学中に納められた額のみであり長期にわたって活動していくためには、財源不足となる恐れがあります。したがって、年度会費のことなどを総会で検討していただきたいと思います。

〈第一回ありす会総会開催〉

八月十一日(日)午後一時より國學院女子短期大学にて開催します。総会次第は、次のとおりです。

- 一 会長あいさつ
 - 二 学長あいさつ
 - 三 報告事項
- (1) 昭和五十九年度事業報告について

(2) 昭和五十九年度決算報告について

〇昭和五十九年度会計決算報告

四 協議事項

- (1) 昭和六十年度事業計画(案)について
- (2) 昭和六十年度予算(案)について
- (3) 國學院女子短期大学同窓会規約改正(案)について
- (4) その他
- 五 その他

〈懇親会〉

同日、総会終了後午後三時より、滝川ホテル三浦華園(花月一〇二二一〇〇)にて五千円会費で行います。お世話になった方、財源不足となる恐れがあります。したがって、年度会費のことなどを総会で検討していただきたいと思います。

同窓生の皆様も近況報告などをおねて母校、滝川の地に一人でも多くの方が、足をむけて下さることを期待しています。

☆☆☆

準備の都合上出欠の有無を七月二十日迄に同封のハガキにてお知らせ下さい。なお、ご都合により欠席の方も必ず、委任状(同封ハガキ)を返送して下さい。

支部の役割について

ありす会会長 越石 真樹



早いもので、同窓会ができて今年で二年目になります。一期生の皆さんはそれぞれの方面で御活躍なさり、またこの春御入会された二期生の皆さんも仕事に慣れた頃ではないでしょうか。

さて同窓会は年ごとに会員が増加していくわけですが、その基盤とな

るものに『支部』があります。支部は道央一・二、道東一・二・三、道北道南の七支部にわかれていますが、どうして支部を設けたかという、一つには本部(常任幹事会)から会員に連絡をしなければならぬ場合の連絡拠点とするためです。もう一つは会員が全体で集まる機会が少ないため小さい単位で懇親会等の集まりを持つて、会員相互の友好をはかりたいと思ったためです。

そのために必要なのは支部長の方々の御協力です。支部長は会員と本部との大事なパイプ役です。また懇親会の開催にあたっては、そのまとめ役となるわけです。

同窓会名決定の経緯について

前号で会員の皆様にお願ひしておりました同窓会名は「ありす会」と決定させていただきました。

会員の皆様からお寄せいただいた中には、「ありす会」・「プラタナス会」・「滝の川」・「國滝」・「桜菊会」・「すずらん会」・「年輪」・「導友会」などのご意見がありました。いづれもごく少数なため、事務局では決めかねる結果となりました。さらに、同窓会の名称は私どもの母校がこの滝川に存在する限り、卒業

業生のよりどころとなる大事な名称ですから、事務局全員で協議の結果、学長先生にご相談をし、お決めいただきました。こういふことになった次第です。学長先生は「やはり、第一期生が考えて下さった『ありす会』。とても素晴らしいと思いました。その名にあやかり同窓会も『ありす会』としてはいかがですか。このご意見をいただき、『ありす会』と決定させていただきます。あわせて、会報の題字も学長先生に書いていただくこと

ができました。さて、『ありす会』の名がついたのは開学二年目五十七年のことです。これは、國學院大学の創設者でいらした有栖川宮徳仁親王のお名前をいただき(国文科)、アリスというイメージからイギリス文学の『不思議の国のアリス』(英語科)、童話としての『不思議の国のアリス』(幼児教育科)、というように三学科に結びつく名前として付けられたのです。なお、同窓会名募集に対してのご意見、ご協力ありがとうございました。



「藁づと」の威力

こいずみ ひろし



元来その一粒一粒は、北海道全境

更には遠く山形・新潟・神奈川・愛知等の本州各地で個々にとれた豆粒であった。これが滝川に集つてきて一年・二年とわが「藁づと」の中でなかされる。菌の力がよくよく作用し、互に影響し影響されて全く変質してしまふから妙だ。休暇がきて帰省し、卒業して各地に散らばる。豆粒は昔のままのつもりでコロコロと散っていく。ところがドッコイ、その後から遠慮会釈もなくネバく種々様々の人間関係に応じて、あるいは太くあるいは細くあのネバくが糸を引いていく。そのネバくが氣にくわいとし身をかわしたり払いのけようとする。思いがけない他の豆にからみついたり包まれたりもする。かきまぜるとかきまぜる程糸の太さも数も増し、適当の調味料などを加えると格別の風味も出てくる。独特の風味のあるこの納豆、これが校風とでもいうものであろうか。

「学校」という環境は特異なる場である。

「家庭」には、双児でもない限り同年者はいない。祖父母・父母・兄弟姉妹と、年令隔差は甚しい。時には七十八十才に及ぶことさえある。しかし、こは暖い肉親の愛情に包まれた和やかな安らぎの世界である。

「一般社会」は、年令隔差は勿論

のこと、職業・教養・趣味・宗教・思想や目指すところも種々雑多な個や集団が、複雑に層をなして構成されておき、互に協力し合う一面を持ちながらも、闘争し、いがみ合い、時には敵視し合つたりさしている厳しい場である。

「学校」は、綿密な計画環境のもと、学問と人間形成という同じ目的をもった、師弟同行の、同一年令者の集団といえるであろう。

一人一人が何等関係のない、個々ばらばらな個々の、単なる一時的集合の場合でさえ、群集心理と称する異常なる迫力と動力をもつことが発生したりする。況んや、理想に対して最も強い、かつ、純粋な情熱を傾注する同一年令層の乙女が集つて、個人としては得難い精神的な迫力や、真剣な夢闘気が生まれて来ない筈はないのである。

この「わたくし」という豆粒が、個人としては得難い精神的迫力に満ちた真剣な夢闘気を醸成させるのに、強力な要素として大きく参予しているが、反面、その強力なネバくが強く深く影響を受けているのである。

こうした人間関係に幾重にも包まれ、あるいは浄化され、あるいは育てられ、時には個人の心の地盤も排除され、より高く推進されもしているのである。集団生活の尊貴なる所以はここに在る。

同じ「藁づと」の中で育成された皆さんが、互に協力し合い、はげまし合いながら、ネバくの糸を更に濃密にして、それぞれの道を邁進していきまふことを、心から願ひいたします。(国文科長)

松田由理子講師 リサイタル

幼児教育科専任講師の松田由理子先生が、来る七月十一日午後七時より札幌共済ホールにおいて、初めてのリサイタルを開きます。

曲目

▽シューベルト

「たぬみなき愛」「若き尼」その他

▽アラームス

「ドイツ民謡集」よりその他

▽シニエール

「四つの歌曲」作品2

▽リヒャルト・シュトラウス

「セレナーデ」「万霊節」

「ときはなれた心」その他

ピアノニストには、芸大の先輩である安井耕一先生をお迎えします。御都合のつく方は、足を運んではいかが?

詳しくは、〇一一六一一五〇二九Lilies(久保ま

宮内克男教授逝去



宮内教授の講義または、お人柄に接したことが脳裏に浮かばれていることと思います。

学内外の尊敬を集めておられた温容を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

宮内教授略歴

昭和六十年二月十三日午前六時五十分、癌性腹膜炎のため群馬県高崎市の療養先で逝去された。二月十五日執行された告別式には短大からは学長先生はじめ教職員、知らせを聞いてかけつけた在学生・同窓生も用間の列に加わりました。

転居(一期生分)

支部長連絡先

事務局より

●住所・姓の変更について
結婚・転居による姓・住所に変更のあった場合は必ず事務局にご連絡下さい。郵便物を発送しても返送分が多く経費の無駄となります。氏名・旧姓・住所・勤務先・旧所属・卒業年度を明確にお書き下さい。

●返信用ハガキについて
今年度同封の返信用ハガキには、総会・懇親会の出欠、委任状等が刷り込まれています。ぜひともご返事をいただきたいと思いますので、つい、投函するのを忘れた、ということのないようお願いします。

また、通信欄は会員間の伝言板になればと考えております。ぜひご利用下さい。

ありす会について皆様の「ご意見、ご要望等」がありましたら事務局(短大内)までお寄せ下さい。

尚、会報・名簿の発行にあたり、御協力下さいました皆様に心からお礼申し上げます。

